

# 雑誌センターについて

雑誌センターは学術情報総合センターの中で最も重要な施設の一つです。  
これからその計画の概要について説明しましょう。

図書館相互利用：雑誌は、現在のところ、印刷媒体としては最も新鮮な情報を伝達する手段です。大学図書館が収集する雑誌には、一般的な内容の記事や読み物が掲載されている総合雑誌や教養的雑誌、学習用雑誌等がありますが、やはり研究論文を主に収めている雑誌、即ち学術雑誌が重要な地位を占めています。学術雑誌は言うまでもなく、大学における教育・研究に必要な不可欠なものであり、その収集、提供は図書館の責務です。

学術雑誌は世界的に毎年増加の一途をたどり、それらをどのように収集していくかが大学図書館全体に課せられた大きな課題となっています。その出版数の年々の増加は、大学図書館の収集率の低下をもたらし、単独の大学図書館だけでは利用者ニーズに十分に 대응することが困難となりました。そこで図書館どうしが協力して資料を相互に利用し合うなど、多くの図書館の結集した力によって、利用者の様々な要求に対処しようという図書館相互協力活動が推進され発展しました。この大学図書館相互協力の思想を基本理念にして、文部省の学術情報センターを中心に、全国の大学図書館を基盤とし、大型計算機センターや情報処理センター、大学共同利用機関（高エネルギー物理学研究所等）をコンピュータと通信網で結合した「学術情報システム」が形成されました。

このシステムの形成によって、全国の雑誌の書誌情報がコンピュータに入力され、各図書館の端末機を操作することによって、必要とする雑誌の何巻何号がどこの大学に所蔵されているかが瞬時にわかり、その文献が必要であればILL（Inter Library Loan：図書館相互貸借）システムを通してFAXで送ってもらうことができ、短期間に入手できます。

\* \* \*

学内資料の共同利用体制の整備：このように全国的な情報流通体制（シス

テム）や資料の図書館間相互利用体制は非常に整備されてきました。しかしそれにも増して重要なことは、それぞれの大学において学内ネットワークの整備や学内資料の円滑、効率的な利用、共同利用体制を確立することです。

例えば本学の場合、雑誌は図書館以外に学部、学科、研究室等約150単位の箇所分散されています。収集にあたってはそれぞれの単位での教育・研究に必要なものを揃え、それが大学全体の蔵書を構成していますが、各単位間であまり調整されることもなく収集されていますので、大学全体としては系統性に欠け、同一雑誌の重複をまねくという結果も生じています。次に利用について考えてみますと、このように多くの箇所に細かく分散されていることは、学内での広く円滑な利用、共同利用に大きな障害となります。雑誌が身近にあるのは非常に便利ですが、利用したい雑誌が他学部や他の研究室等にある場合には不便です。例えば、必要とする雑誌が学内の他の研究室に所有していることがわかって、なじみが薄いため利用しにくく、やむをえず他大学の知り合いのいる学科の雑誌を利用したなどの話を聞いたことがあります。

このように多くの細分化した単位で保管されていることは、図書館がサービスの窓口となり、各単位との間の連絡を緊密にしたとしても限界があり、全体としての円滑な利用にはなかなかなりません。また書誌情報のデータベース化により、必要とする雑誌の所在が迅速につかめても、めざす資料が利用しにくかったり、文献の入手に時間がかかってはせっかくのコンピュータ化もそれほどメリットにつながらなくなります。大学全体の資料を円滑に運用し、共同利用を促進するためには、資料を図書館に可能なかぎり集約し、図書館で一元的管理運用を行い、それをもとに各部局とのネットワークを形成することが必要ではないかと考えて

います。

\* \* \*

新しい雑誌センター：本学においても収集雑誌が年々増加し、現在杉本キャンパスですでに11,000タイトルを超えています。これらの円滑かつ有効な利用を促進するために、地下1階に雑誌センターを設置することにしています。学術情報総合センターの中で図書館部分の施設は従来にも増して拡充されますが、雑誌センターはその最重点施設の一つにあげられています。地下1階を雑誌センターゾーンと呼んでいますが、そこに各学部等に分散している雑誌をできるだけ集中し、広く利用者に提供しようとするものです。

この雑誌センターは新着雑誌やバックナンバーの集中化の他に、年鑑、統計、白書等の逐次的な刊行物、いわゆるデータソースブック等を体系的かつ継続的に収集し、これらの利用の共同化、有効化を図ろうとするものです。さらに学術情報ネットワークへの接続とともに、他大学との相互利用を積極的に行うことによって利用の範囲を拡大し、学術情報の最も重要な拠点として大きな役割を果たすことをめざしています。

施設の概要を説明しますと、地下1階中央の南側に雑誌カウンターがあります。ここで雑誌資料の所在・所蔵情報の提供・CD-ROM等情報検索機の利用指導等雑誌に関する総合案内を行います。その近くに端末機や情報検索用パソコンが配置されています。このカウンターをはさんで西側が雑誌・新聞閲覧室、東側が雑誌利用書庫になっています。『雑誌・新聞閲覧室』には新刊の雑誌と新聞を展示しており、またそれを閲覧する座席があります。ここには新しい雑誌約5,000タイトルが一定の体系のもとに配架され、また新聞も外国紙、専門紙を中心に配架される予定になっています。その間に100余りの閲覧机（席）が各所に配置されており、周辺に何台かの複写機を

備え、雑誌を見て必要な論文、記事等をすぐにその場でコピーできるようになっています。『雑誌利用書庫』には発行後1年以上経過したバックナンバーを配架し、利用頻度が高く、年代の新しい雑誌約10万冊を配架する予定です。この書庫の中にも閲覧机(席)や複写機が配置されています。これらの雑誌は利用が少なくなったり、年代が古くなると、地下2階へ配架されます。

地下2階は、東側が『雑誌集密書庫』西側は単行書が保存されている『一般集密書庫』となっています。雑誌集密書庫の収容能力は約30万冊で、この階にも閲覧机(席)や検索用端末機、複写機が配置されており、閲覧個室も7室あります。地下1階の雑誌利用書庫と地下2階の雑誌集密書庫の収容冊数はあわせて約40万冊となり、雑誌書庫としては国内の大学図書館の中では有数の規模となります。

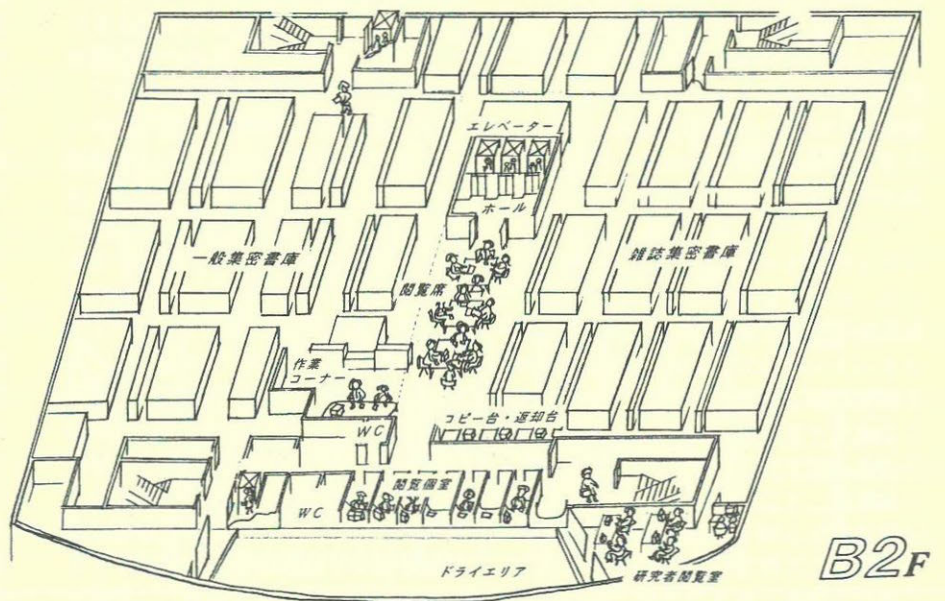
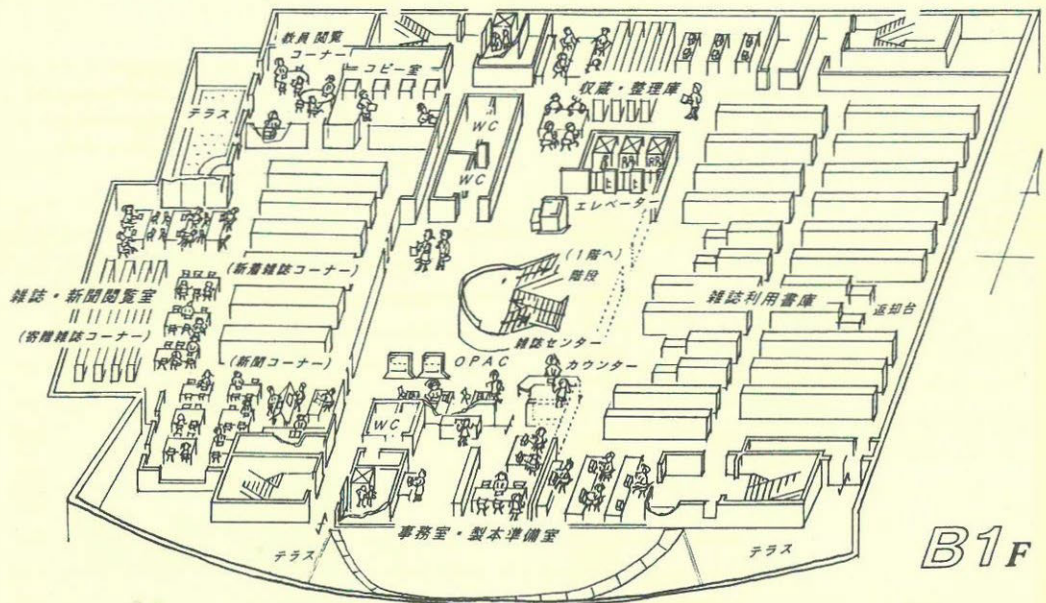
この雑誌センターには新着、バックナンバーを問わず全学の多くの雑誌が集中しますので、学際領域、多分野の雑誌が一度に容易に利用できます。雑誌は一部分の箇所(論文、記事等)を利用することが多く、雑誌そのものを借り出すというよりも、その特定の部分を複写し入手することで足りるもので、共同利用促進の観点から、利用は雑誌センター内での閲覧と複写を中心とし、貸出は不可とします。その代わり、欠号のないフルセットの雑誌を常時提供できる体制を整えるとともに、そこで利用するための快適な閲覧環境を整えたいと考えています。

雑誌センターの施設内は空調設備が完備し、十分な閲覧席の確保と多くの複写機を各所に配置するとともに、閲覧机、雑

誌の展示架(棚)等を木製とし、閲覧室、書庫内等全体として明るく快適な利用環境のもとで、論文等がおちついて読める雰囲気になっています。

以上が雑誌センターの概要ですが、全学の雑誌をできるだけ多く集約し、そこに行けばいろいろな雑誌が容易に利用でき、一度に用が足りるといふところに大きな意義があります。そのため雑誌の最大限の集中化をめざしたいと思っています。しかし、雑誌を身近に置いて研究を行ってきた多くの研究

者の長年の習慣や学問分野の特徴、研究スタイル等もありますので、将来的には全ての雑誌を原則としてこのセンターに集めるとしても、当面は約5,000タイトル程度を集中化させたいと考えています。そしてそれらに対して、学内ネットワークを介した検索システムを確立するとともに、様々な利用者へのサービスを拡充させる中で、雑誌センターへの集中化を促進し、情報資源利用の一層の効率化を進めたいと考えています。



※このイラストは、イメージ図です。  
今後変更することもあります。ご了承ください。